

世界大都市交通発展フォーラム 2016 北京

World Metropolitan Transport Development Forum 2016 Beijing

剣持 健* 岡 英紀** 萩野保克***

By Takeshi KENMOCHI, Hideki OKA and Yasukatsu HAGINO

1 はじめに

「世界大都市交通発展フォーラム 2016 北京」は、北京市交通委員会および北京人民政府渉外局の主催により、2016年10月24日～25日の日程で開催された。本稿ではフォーラムの概要と、フォーラム後に2日間の日程（2016年10月26日～27日）で現地の研究機関が主催した意見交換会の概要などを報告する。

2 「世界大都市交通発展フォーラム 2016 北京」に参加して

(1) フォーラムの概要

本フォーラムは北京市郊外のオリンピック公園にある北京国家会議センターにおいて開催された。同会議センターは中国国内有数の大規模コンベンション施設であり、2008年の北京オリンピックではフェンシング競技の会場にもなった建物である。

フォーラムには、都市・交通分野に精通した多くの専門家（行政、研究機関、実務関係者）が世界各国から招かれ、中国国内のほか欧米やアジアの都市・交通の実態・課題や取組に関する報告と意見交換が行われた。2日間の日程で実施されたセッションは以下の6つである。

- ① High-Level Forum (ハイレベル・フォーラム)
- ② Urban Transport Forum (都市交通フォーラム)
- ③ Integrated Transport Development in City Clusters (都市クラスターにおける統合化された交通の発展)
- ④ Internet + Transportation (インターネットと交通)
- ⑤ Transit Oriented Development and Transport Demand Management (公共交通指向型開発 (TOD) と交通需要管理 (TDM))
- ⑥ Metropolitan Freight Transport Practice (都市物流の実践)

全体的には、公共交通指向型開発 (TOD)、交通需要管理 (TDM)、都心の駐車問題に関する報告や議論が目立っていた印象を受けた。近年、北京をはじめとする中国の大都市では道路渋滞が社会問題化している。こうした背景から中国国内において都市交通に関する諸外国の知見や取組が大きな関心を集めていることが伺われた。



写真-1 会場内の様子

(2) 当研究所による講演

当研究所からは、剣持研究員が“Metropolitan Freight Transport Practice (都市物流の実践)”のセッション(前述の⑥)の中で、“Introduction and Application of Tokyo Metropolitan Freight Survey”と題した講演を行った。本講演は、平成25年度～26年度に実施された首都圏の物流に関する大規模調査である「東京都市圏物資流動調査」の内容と、この調査の結果をもとに東京都市圏交通計画協議会^{注1)}が平成27年度にとりまとめた物流施策の方向性¹⁾を紹介したものである。

筆者の知る限り、日本以外の諸外国において都市圏レベルの大規模な物流調査が実施されている例はない。セッション終了後に筆者らの隣席にいた米国の研究者からは「米国では物流に関する調査データがなく、東京都市圏物資流動調査は大変興味深い」との話を頂いた。東京都市圏で過去5回に渡って物流調査が実施さ

* 道路・経済社会研究室 研究員 博士 (社会経済) ** 社会基盤計画研究室 研究員 *** プロジェクト推進担当部長 博士 (工学)



写真-2 当研究所による講演の様子

れてきたこと、調査結果を用いた分析に基づき物流施策の検討や提言が行われてきたことは、海外の専門家から驚きとして受け止められていると感じた。

3 フォーラム参加以外の活動について

(1) 北京交通エネルギー環境センター (BTEC) 主催の意見交換会への参加

筆者らはフォーラム後に2日間の日程で北京交通エネルギーセンター (以下、BTEC) が開催した意見交換会にも参加した。この会では、フォーラムに引き続き、当研究所から東京都市圏物資流動調査に関する情報提供を行った。BTECの参加者からは、北京では貨物車の通過交通が大きな課題となっており、その実態や課題の把握のために物流調査を行うことが求められているとの話があった。こうした中で、東京都市圏物資流動調査に対する彼らの注目度は高く、調査の目的や経緯、調査方法などに関して多くの質問を受けた。

(2) 北京市内の視察

北京滞在の最終日には、北京郊外にある物流基地を視察した。広大な敷地内に、野菜、青果、食料品、日用品の卸売市場やトラックターミナル等の施設が配置され、建物や設備の多くは老朽化している印象を受けたが、モノや人は非常に活発に動いていた。この視察を手配してくれたBTECの方から、北京郊外には同様の物流基地が複数あり、基地周辺の無秩序な土地利用や、敷地面積当りでの物流基地の生産性の低さが課題になっているとの話を聞いた。物流拠点周辺の土地利用については東京都市圏でも課題の1つに挙げられており、我

が国との共通点が存在していることを知ることができた。

4 おわりに

本フォーラムへの参加を通じて、海外の都市交通に関する知見を深めることができた。また、当研究所の講演に対して海外の参加者から様々な反応をいただけたことは貴重な経験となった。今後もこうした国際的な会議に積極的に参加し、情報発信や情報交換を行うことが重要であると改めて感じた。

補注

注1) 東京都市圏交通計画協議会は、総合的な都市交通計画の推進に資することを目的に、複数の都県市関係機関が互いに協力・調整しあって広域的な交通問題に関する調査・研究を行う組織として1968年に発足した。第5回東京都市圏物資流動調査実施時の構成団体は、国土交通省関東地方整備局、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市、独立行政法人都市再生機構、東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、首都高速道路株式会社。

参考文献

1) 東京都市圏交通計画協議会：東京都市圏の望ましい物流の実現に向けて、東京都市圏交通計画協議会ホームページ [http://www.tokyo-pt.jp/publicity/index.html], 2015年12月。